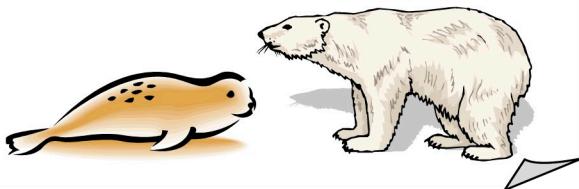


喝杯咖啡休息一会儿④

助词“で”和“に”

A アザラシ 熊 食べた



B ライオン トラ 食べた



来看看 A 这则新闻报道。看完后您认为是谁把谁吃了？相信凭直觉，你或许会认为“是熊把海豹吃了”。因为“海豹”与“熊”的体格差距太大，因此可以这么说，自然常识促使您做出了这样的判断。

但是，B 这则新闻报道将让您作出怎样的判断呢？有点儿难说，是吧。到底谁把谁吃了呢？

在日语中，诸如“食べた 熊が アザラシを。”这样的句子，要是动词跑到句首来了，那么语法上将是不正确的。但要是将其说成“アザラシを 熊が 食べた。”或“熊が アザラシを 食べた。”，位于句首的无论是“アザラシを”还是“熊が”，句子的语法都是正确的。因为，按照语法规则，此处助词“が”所表示的是“食べた”这个动作的动作主，而“を”所表示的，则是“食べた”这个动作所涉及的对象。因此，读者能够领会句子所要表达的意思。如此这般，日语并非按照词序来排列语意，而是借助“が”及“を”等助词，来对语意进行判断的。比如上面“海豹”和“熊”之间的关系，要是很清楚谁把谁吃了的话，在会话中可以将助词省略，但是像“狮子”和“老虎”二者，无法判断谁吃了谁的时候，就不能省略助词了。

コーヒーフレイク④

～助词「で」と「に」～

さて、A のような新聞記事を見たとき、皆さんはどうちらがどちらを食べたと思いますか。恐らく、直感的に「熊がアザラシを食べた」と解釈するのではないか。アザラシと「熊」では体の大きさや強さが全然違いますから、常識的な判断が働くからだと思います。

しかし、B のような新聞記事を見たときはどうでしょうか。判断が難しいですね。どちらがどちらを食べたのでしょうか。

日本語の場合、「食べた 熊が アザラシを。」のように、動詞が文頭にくることは文法的に正しくありませんが、「アザラシを 熊が 食べた。」「熊が アザラシを 食べた。」のように、「アザラシを」と「熊が」はどちらが先でも文法的に正しいです。助詞「が」は「食べた」主体を表し、助詞「を」は「食べた」対象を表すという規則によって、文の意味が理解できるようになっているのです。このように、日本語の文は、語順で文の意味を判断するのではなく、「が」「を」などの助詞によって文の意味を判断しますから、「アザラシ」と「熊」のようにどちらが「食べた」かが明白な場合、会話では助詞を省略できますが、「ライオン」と「トラ」のようにどちらが「食べた」かが明白でない場合は助詞を省略できません。

日本語の文を理解する上で重要な役割を担っている助詞の使い方が難しいという声をよく聞きます。今回は、助詞の中でも特に、「で」と「に」の使い方について少し考えてみましょう。まず、次の会話を見てください。

高橋さん：「いつもお昼はどうしてるの？」

木村さん：「社員食堂で [] 」

さて、木村さんは「社員食堂で」の後、何と

日语中，助词随时随地都在理解语意上起着非常重要的作用，可是我们也常常耳闻“助词的用法很难！”这样的感叹。在这一期里，我们就打算将“で”和“に”这两个助词提出来，和大家探讨一下。先来看段会话：

高橋さん：「いつもお昼はどうしてるの？」
木村さん：「社員食堂で 。」

请问，在“社員食堂で”后面，木村先生说的是什么？请从下面三个答案中选择一个。

「行く」 「いる」 「食べる」

怎么样？我们曾经听到过这样的声音：日语的动词都是出现在句尾的，所以如果不听到最后的话，是根本无法判断说话人到底要说什么的。那么，以日语为母语、听人说话听到最后的日本人本身，是不是就能全盘掌握说话人的语意呢？一般来说，听人说话的时候，听者往往是一边揣测说话人接下去要说什么，一边听的。

此处，重要的是“社員食堂”和助词“で”的搭配关系。“社員食堂”表示的是一个场所，因此，以日语为母语的人，在听到“<場所> + で”这个搭配的时候，就会联想揣测、并将焦点聚在其后的动词上，如“食べる”、“飲む”、“会う”、“話す”或“電話する”等等，而不会去联想、选择“行く”及“来る”等表示移动的词语，或是“ある”或“いる”等表示存在的词语。

那么，跟在“社員食堂”后面的，应该是什么样的动词呢？应该是“行く”或“いる”。此处“場所”中的“場所”，可以是某种移动的目的地，也可以是某种存在的场所。比如，“社員食堂に行く”这个句子，“社員食堂”是“行く”的目的地；然而，“社長が社員食堂にいる”这个句子中的“社員食堂”则表示“社長”存在的场所。同样，在“テレビが社員食堂にある”这个句子中，“社員食堂”表示的是“テレビ”的所在（放置）场所。

那么，请大家来看一下，在下面的句子中，应该填入括号中的助词是“に”呢，还是“で”：

 言ったのでしょうか。下の 3 つの中から考えてみてください。

「行く」 「いる」 「食べる」
いかがですか。日本語の文は動詞が一番最後に話されるので最後まで聴かないと内容が全然わからないという声を聞いたことがあります
が、実際、日本語母語話者は文の最後まで聴いてからその内容を理解しているのでしょうか。
一般的には、話を聴くとき、その後ろに続くだろう語彙の種類を予測しながら聴き進めて
いると考えられています。

ここでポイントになるのは「社員食堂」と「で」という組み合わせです。「社員食堂」は場所を表していますが、日本語母語話者の頭の中では、「<場所> + で」という組み合わせに続く動詞は「食べる」「飲む」「会う」「話す」「電話する」といった動作を表す語彙に絞った予測がなされます。「行く」「来る」といった移動を表す語彙や「ある」「いる」といった存在を表す語彙が続かないということを知っているということです。

それでは「社員食堂に」に続く動詞はと/or、「行く」または「いる」です。「場所に」の「場所」は、移動の目的地を表す場合と存在の場所を表す場合があります。例えば、「社員食堂に行く」では、「社員食堂」は「行く」の目的地を表しています。また、「社長が社員食堂にいる」では、「社員食堂」は「社長」の存在(「いる」)の場所を表していますし、「テレビが社員食堂にある」では、「社員食堂」は「テレビ」の存在(「ある」)の場所を表しています。

さあ、下の（ ）に入る助詞が「に」か「で」かを考えてみましょう。

- | | | | |
|---------------|-----------|---------------|------------|
| (1) 日本語教室 () | 日本語を勉強する。 | (5) 日本語教室 () | 週に 1 回行く。 |
| (2) 日本語教室 () | 机と椅子がある。 | (6) 日本語教室 () | とも 友だちがいる。 |
| (3) 日本語教室 () | 新聞を読む。 | (7) 日本語教室 () | 友だちと話す。 |
| (4) 日本語教室 () | 平仮名を練習する。 | (8) 日本語教室 () | 世界地図がある。 |

(1)(3)(4)(7), 应该填“で”，而(2)(5)(6)(8)，则应该填“に”。另外，再来看看下面的(9)(10)两句。我们也请大家自己造一些句子，以帮助您学习。

(9) 市場 [] 。

(1)(3)(4)(7)は「で」、(2)(5)(6)(8)は「に」です。さらに、次の(9)(10)も考えてみましょう。いろいろな文をたくさん作ってみてくださいね。

(10) 市場 [] 。

比如，第(9)句，也可以联想揣测为“野菜を買う”、“魚のセリを見学する”或是“仲買人として働く”等；而第(10)句，则可以联想揣测为“毎日仕入れに行く”、“新鮮な商品がある”或“多くの買い物客がいる”等。

此次，我们看了一下助词“で”和“に”的用法。敬请大家不要畏缩，我们希望大家能够多说多用，慢慢习惯、掌握日语的助词。(M)

例えば、(9)は「野菜を買う」「魚のセリを見学する」「仲買人として働く」などが考えられます。また、(10)は「毎日仕入れに行く」「新鮮な商品がある」「多くの買い物客がいる」などが考えられます。

今回は、助詞「で」と「に」の使い方について考えてみました。恐れることなどありません。どんどん使って、日本語の助詞に少しずつ慣れていきましょう。(M)